

2 学期始業式講話

おはようございます。

暑かった夏も終わり、今日から 2 学期が始まります。

今日という日を始業式にした理由は、今から 100 年前の 1923 年、大正 12 年 9 月 1 日午前 11 時 58 分に関東大震災が起きたからです。皆さんの知っているのは 3.11 すなわち平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災でしょう。マグニチュード 9.2、2 万 2 千人の方が津波等で亡くなりました。その前は平成 7 年 1 月 17 日の阪神淡路大震災で、この時も 7 千人あまりの方がビル倒壊等の圧死で亡くなりました。それ以前をさかのぼると関東大震災になります。

私の小学校から高校時代まで、2 学期の始業式は必ず 9 月 1 日と決まっていた。まだ土曜日の午前中授業があった時代で、今のように 8 月の終わりから始業式を行う時代ではありませんでした。その時、いつも熱い中グラウンドで始業式と防災訓練が行われました。前日まで夏休みで、熱い中嫌だなあと思いながら登校した覚えがあります。

この関東大震災はマグニチュード 7.9 と東日本大震災ほどではありませんでしたが、10 万 5 千人の方が亡くなりました。建物倒壊による圧死だけでなく工場火災、さらには津波とあらゆる被害をもたらした地震でした。

私は静岡県における被害状況を調べたところ、富士・富士宮地区は大きな被害は出ていませんでした。それより東部の小山町において、倒壊や工場火災により 100 人以上が亡くなっています。あまりこのことは知られていません。そして熱海・伊東地区は津波被害がありました。熱海では海岸に出た方が津波に巻き込まれていますし、2 年前に伊豆山土石流災害がありましたが、その伊豆山神社で、警察官の方が巡査中に神社鳥居の下敷きになって亡くなっています。それぞれの地区で 50 人以上を超える死者を出しました。つまり関東大震災は本県においても他人事でない災害でした。

もし今大震災が起こったらどうなるでしょうか。本校は高台にありますから、津波被害を恐れる方々が車で避難してくるかもしれません。駐車場は大混乱になるでしょう。グラウンドは避難地ですが、校舎を使わせてくれと教室内に雪崩れ込む可能性もあります。

そんな時皆さんは何ができるでしょうか。災害の有事の時、高校生はすごくあてにされています。貴重な戦力です。そうした時、余震の恐怖もありますが、その後の対応の中で、色々手伝えることもあるでしょうが、ただ居てくれるだけでも十分です。年寄りや小さい子たちからは側に居て、手を握ってくれるだけでも安全なんです。そのくらい貴重な存在が皆さんののです。

自分の存在価値をこれまでどこまで考えてくれたのでしょうか。学校や家庭の中で、自分の存在はたいしたことないと悲観し、自分に否定的な方・・・、そんなことはないです。貴重な存在なんです。これまで度々皆さんには伝えてきたことがあります。それは自分の存在は

何にもかえがたいものであり、生きて居てくれることは何よりも世の中のためになっているということを案外忘れがちになっているんです。

例えば探究学習の究タイムで調べて考えること、これとても世の中に役立つことであり、そういうためになる勉強をしてきているはずです。

この夏は本当に暑かったです。全国中が猛暑日でした。40日間過ごす中で、やっぱり若者の存在は今の世ではかけがえのないものであり、皆さんを力づけてくれる存在であることをテレビ観戦したりニュースを見る中でつくづく感じました。今日という日は災害有事を想定して、皆さんに自覚してもらおう、そんな風に夕べ考えました。

これから2学期を過ごす中で、勉強やスポーツや友人関係の中で、自分の存在は常に必要なのだと思ってほしいし、その上にたって何か働きかけてほしいと思います。そうなれば今日という日に始業式を行った意味があると思います。そんな2学期を過ごしてください。

以上で講話を終わりたいと思います。

(令和5年9月1日、始業式)